『時 事 直 言』No.1603　2023 年 5 月 11 日
[HP] http://chokugen.com/
[FAX] 03-3956-1313　　[mail] info@chokugen.com
[twitter 日本語] t_masuda2019/　[twitter 英語] T_Masuda_eng/
[instagram] t_masuda2019/　[Youtube] 増田俊男チャンネル/

時事評論家 増田俊男

Too big to fail (TBTF):「大きすぎて潰せない」

2008 年のリーマンショック(サブプライムローン破綻-信用喪失)でアメリカの金融機関が破綻に追い込まれた時、合衆国政府は Too big to fail の名のもとに大手金融機関を納税者のカネで救済した。

国家経済に多大な影響力を持つ大手銀行は、少々危険なこと(ハイリスク・ハイリターン)をして破綻に追い込まれても政府が救ってくれるから大丈夫だと言うことからモラル違反が当たり前になっている。

昨今加州のシリコンバレー銀行やシグネチャーバンクの破綻について当局(証券監視委員会)は「リスクマネジメントに問題があった」と判定した。

両行は大手(Too big)とは言えないが業界 17 位前後の中堅銀行である。

米金融当局である FRB、FDIC(連邦預金保険公社:25 万ドル以内の預金を保証している)、財務省は預金高に関わらず預金者を救済すると発表して、預金者の不安を取り除くのに躍起になっている。

大手金融機関どころではなく、これ以上の Too big to fail はあり得ないのがドルである。

「ドル覇権廃止」はプーチンロシア大統領と習近平中国国家主席の合言葉である。

2014 年を期して今日までロシア、中国、親米から親中に変わろうとしているサウジアラビア、そして反米、非米諸国は一斉に外貨準備からドル資産を減らし始めている。

同じく世界の中央銀行はドル資産を減らし金の保有を増やしている。

ドルは 20 年前に世界の外貨準備の 80%を占めていたのに現在は 59%である。

ドルの世界覇権縮小とドルの信認が下がり続けていることは自明である。

しかるに今なお世界の 65 か国は対ドルペッグ制で、アメリカにおんぶしてもらい、ミルク(ドル)を与えられて育っている(成長している)。

習近平が目指すのは人民元がドル基軸にとって代わることである。

習近平がドルを崩壊したいなら、外貨準備中約 150 兆円から今なお約 100 兆円になっているドル資産を売ればドルは暴落する。

また中国の要請を受け入れてサウジアラビアの MBS(ムハンマド・ビン・サルマン皇太子)がサウジと中東産油国が、従来の独占原油取引通貨ドルに人民元を加えればペトロダラー(原油に支えられたドル)にヒビが入りドルは暴落する。

中国の外貨準備からドル資産が無くなれば中国はほとんどの国に輸入代金が払えなくなる。

サウジのリアルはドルと 1 対 37.5 でペッグしているので外貨準備のドル資産を売ることは自殺行為に等しい。

国際市場におけるドルのシェアが落ちていても国際基軸通貨であるドルの地位は不動である。

正にドルは Too big to fail なのである。

象と蟻が戦う場合、どちらが勝つか聞くまでもないだろう。

私はどうしたら蟻が象に勝てるかを知っている。

「小冊子」Vol.133 の読者には、「通貨戦争に勝つ増田の秘訣は両刃の刃」の「さわり」の部分だけを述べ、中国のシンクタンクで講演をする日に「小冊子」Vol.133 読者だけに別紙「人民元がドルに勝つ秘策」をお送りする。

日本にはスパイ取締り法がないので、スパイ天国である。

CIA エージェントも中国のスパイも活躍しているので、私の「秘策」は米中同時に手渡すことにしている。

ドルが勝つか、人民元が勝つか、先に私の秘策を実行する方が勝つ!

私の秘策を知れば、「コロンブスの卵」であることが分かる。

誰も知らないし、知り得ないが、分かれば誰もが「なーんだ、そんなことか」、、「何故気が付かなかったのだろう」と言うだろう。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社(FAX:03-3956-1313)までお知らせ下さい。